

L07c **2009-11年の木星南赤道縞の変化について**

浅田 正 (九州国際大学)

木星の南赤道縞 (South Equatorial Belt; SEB) には南赤道縞攪乱 (SEB Disturbance) という現象がたまに出現することが知られている。これは本来暗いはずの南赤道縞が明るくなった後、白斑や暗柱状の様子が大量に発生し、本来の暗い状態に戻るといった現象である。

2010年の木星は可視光で南赤道縞が明るくなり南赤道縞攪乱の発生が予想されたが、果たして11月9日に発生し、その後2011年には可視光で暗い(通常の)状態に戻った。

われわれは2009年以降、木星を893nmのメタンバンドで撮影してきた。この画像によると、2010年の南赤道縞攪乱発生以前には、可視光では明るかった南赤道縞が、メタンバンドでは暗かった。一方、2011年の画像では、可視光では暗い南赤道縞がメタンバンドでは明るい。

このことから、2010年の南赤道縞の雲頂高度が低く、2011年は高いことが予想される。雲頂高度の変化の見積もりを報告する。